

CA-400

STEREO PRE-MAIN AMPLIFIER CA-400

GUIDE MANUAL

ヤマハステレオプリメインアンプ

取扱説明書



●ご挨拶

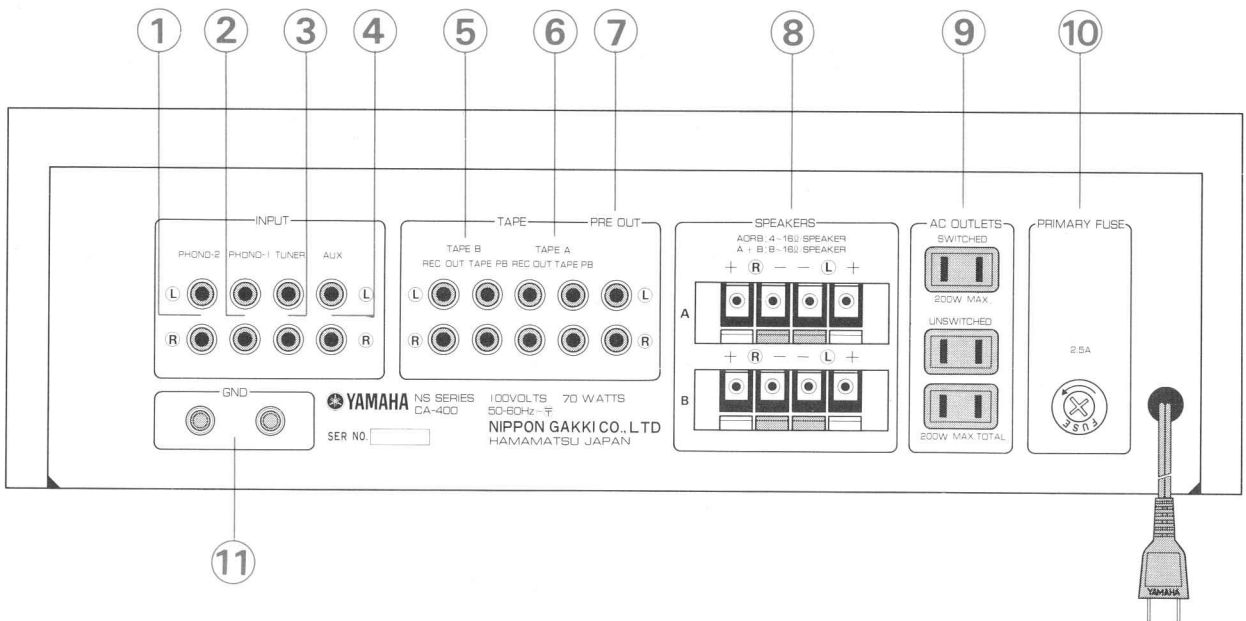
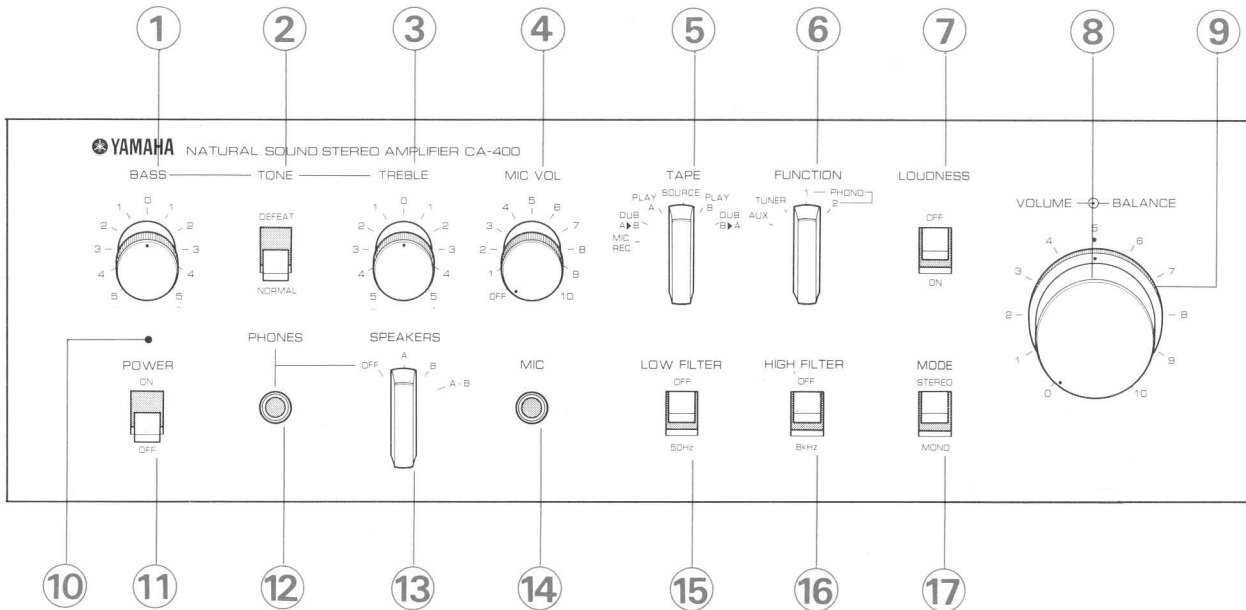
このたびはヤマハステレオプリメインアンプCA-400をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。CA-400は、先に発売され好評を得ているプリメインアンプCA-1000、CA-800で確立された技術を随所に生かすとともに新たな回路技術を導入して設計された高性能ステレオプリメインアンプです。

CA-400を長年にわたってお使いいただくため、この取扱説明書をご使用の前には是非お読みくださいますよう、お願いいたします。

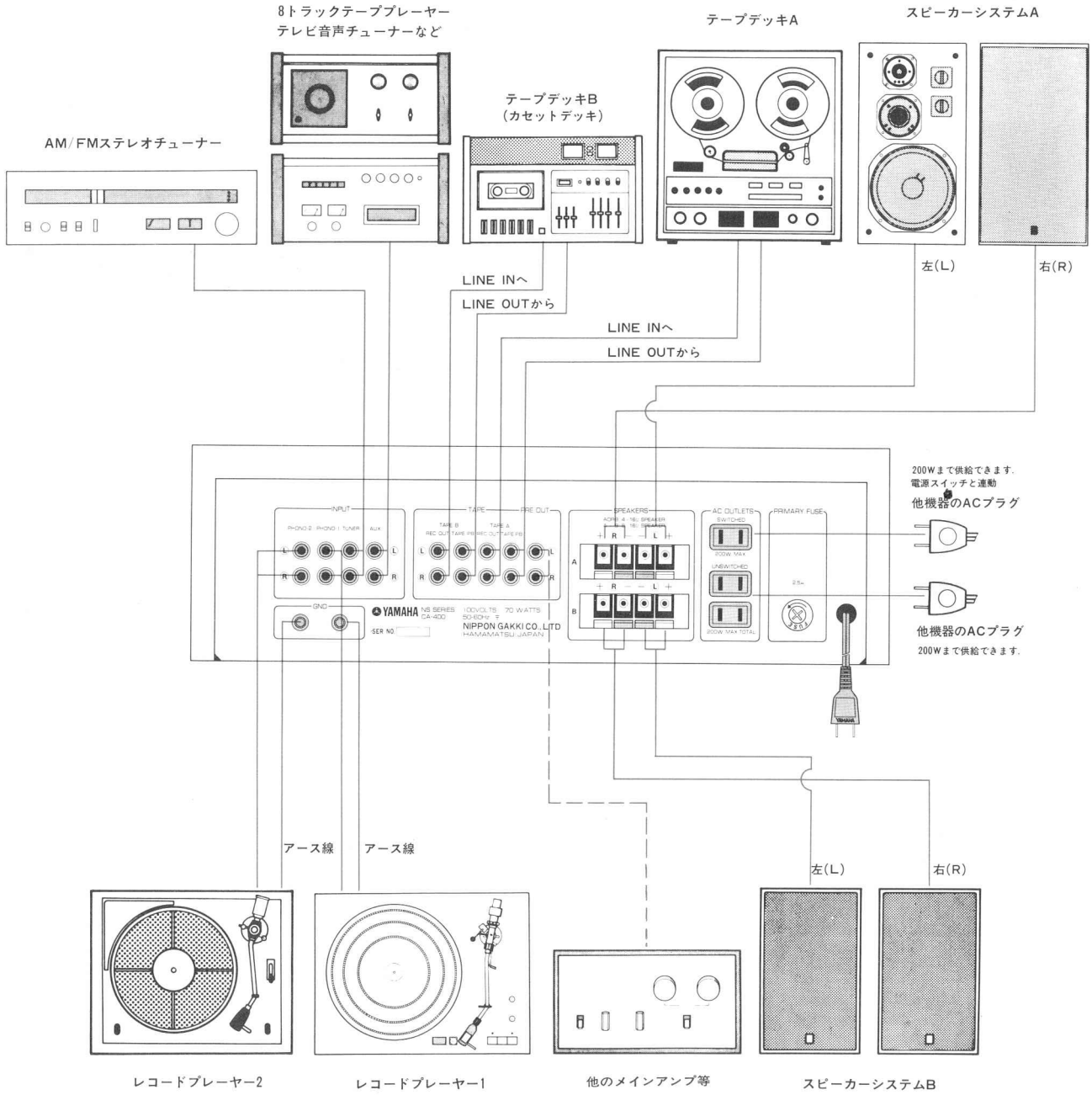
●目次

フロント、リアパネル面	3
接続一覧図	4
特長・ご使用になる前に	5
フロント、リアパネル面の名称	6
各機器の接続と使い方	
スピーカーシステムの接続と使い方	7
レコードプレーヤーの接続と使い方	8
チューナーの接続と使い方	8
AUXへの接続と使い方	9
ヘッドホンの接続と使い方	9
テーブルデッキの接続と使い方	10
マイクロホンの接続と使い方	12
付属機構について	
トーンコントロール	13
ローフィルター・ハイフィルター・モードスイッチ	13
バランス・ラウドネススイッチ	14
付属品について	14
規格・ブロックダイヤグラム	15
故障と思われる時には	16
サービスのご依頼について	17

フロント、リアパネル面



接続一覧図



特長・ご使用になる前に

●特長

- 全段直結ピュアコンプリメンタリー OCL回路により超低歪率を実現したメインアンプ部。
- モノリシック ICを採用し、許容入力135mVrms, RIAA 偏差±0.5dB以内のイコライザーアンプ。
- 超低歪率の3段直結アンプを採用したトーンコントロール回路〔ヤマハ方式NF型〕とフィルター回路。
- ユニークな MIC REC回路。REC OUT端子にマイクとのミキシング信号が得られます。
- ヤマハ独自のスピーカー保護回路。
- 豊富な付属回路。
- 人間工学に基づいた操作性とデザイン。ヤマハの木型技術から生まれた美しい仕上げのアンプキャビネット。

●次のことにご注意ください

- 設置場所は、直射日光のあたるところや湿気の多いところをできるだけ避けるようにしてください。
- 放熱のためキャビネット上面、下面の放熱孔は絶対にふさがないようにしてください。またキャビネットの上にアンプ等をのせるときには、付属のサービスパッドをアンプ等の足に付けておのせください。
- FUNCTION, TAPEなどのスイッチ類は、説明に従い適正な操作をするようにしてください。無理な力を加えたり、途中で止めてご使用になるようなことは避けてください。
- アンプにつながれたスピーカーコードを外す場合は、かならずアンプの電源が切れていることを確認してから行なうようにしてください。
- 入出力コードをさしかえるときは、ボリュームを絞り切るか、電源を切ってから行なってください。
- お買い上げいただきました際、購入店で必ず保証書の手続きを行なってください。保証書に販売店印がありませんと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に実費をいただくこととなりますので、十分ご注意ください。よろしくお願いいたします。

フロント, リアパネル面の名称

●フロントパネル面の名称

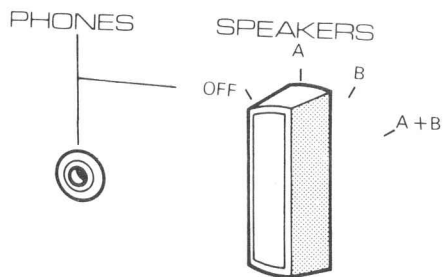
- ① BASS (低音調整ツマミ) ⇨ P13
- ② トーンディフュージョンスイッチ ⇨ P13
- ③ TREBLE (高音調整ツマミ) ⇨ P13
- ④ MIC VOL (マイクロホン音量ツマミ) ⇨ P12
- ⑤ TAPE (テープスイッチ) ⇨ P10
- ⑥ FUNCTION (用途切換スイッチ)
 - AUX ⇨ P9
 - TUNER ⇨ P8
 - PHONO 1・2 ⇨ P8
- ⑦ LOUDNESS (ラウドネススイッチ) ⇨ P14
- ⑧ VOLUME (音量調整ツマミ)
- ⑨ BALANCE (バランス調整ツマミ) ⇨ P14
- ⑩ 電源表示ランプ
- ⑪ POWER (電源スイッチ)
- ⑫ PHONES (ヘッドホン端子) ⇨ P9
- ⑬ SPEAKERS (スピーカー切換スイッチ) ⇨ P7
- ⑭ MIC (マイク入力端子) ⇨ P12
- ⑮ LOW FILTER (ローフィルター) ⇨ P13
- ⑯ HIGH FILTER (ハイフィルター) ⇨ P13
- ⑰ MODE (モードスイッチ) ⇨ P13

●リアパネル面の名称

- ① PHONO 2 (フォノ入力端子 2) ⇨ P8
- ② PHONO 1 (フォノ入力端子 1) ⇨ P8
- ③ TUNER (チューナー入力端子) ⇨ P8
- ④ AUX (補助入力端子) ⇨ P9
- ⑤ TAPE B (テープ録再端子 B) ⇨ P10
 - REC OUT テープ録音端子
 - TAPE PB テープ再生端子
- ⑥ TAPE A (テープ録再端子 A) ⇨ P10
 - REC OUT テープ録音端子
 - TAPE PB テープ再生端子
- ⑦ PRE OUT (プリアンプ出力) ⇨ P12
- ⑧ SPEAKERS A・B (スピーカー出力端子) ⇨ P7
- ⑨ AC OUTLETS (予備電源コンセント)
 - SWITCHED: 電源スイッチと連動(200Wまで供給)
 - UNSWITCHED: 電源スイッチと非連動(200Wまで供給)
- ⑩ PRIMARY FUSE (ヒューズ)
 - 万一交換する場合は2.5A定格のものをご使用ください。
- ⑪ GND (アース端子)

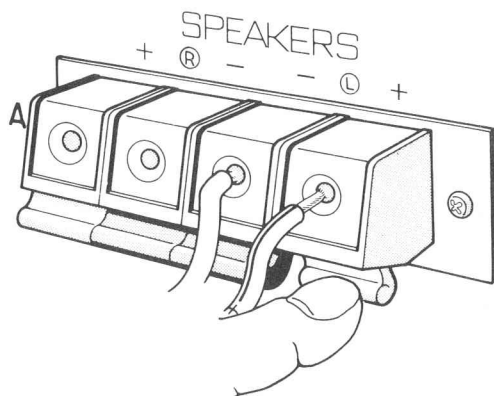
各機器の接続と使い方

1 スピーカー切換スイッチ



A+Bの場合、各スピーカーは8Ω以上のものをご使用ください。

2 スピーカーの接続



●スピーカーシステムの接続と使い方

アンプリアパネルに2組のスピーカー接続端子 (SPEAKERS A, B) があり、2組のスピーカーシステムを接続することができます。フロントパネルの《SPEAKERS》スイッチによって、A, Bそれぞれ単独にも、A+Bと2組同時に使うこともできます。スピーカーの比較試聴や2部屋で音楽を楽しみたいなどというときに便利です。A+Bで使用するときは各スピーカーのインピーダンスが8Ω以上になるようにしてください。OFFのポジションにすると、スピーカーからは音が出なくなります。ヘッドホンを使うときはOFFのポジションにしてください。(図1)

■接続方法

- ①リアパネルのSPEAKERS A端子へ、向って左側のスピーカーシステムのコードをL端子、右側のスピーカーシステムのコードをR端子に、位相(+, -)を確認して接続してください。L, Rを反対に接続したり、位相(+, -)をまちがえたりするとステレオ感のない不自然な再生音になってしまいます。
- ②スピーカー接続端子はプッシュ式で図2のように下のレバーを押すと外側の穴と内側の穴が合いますので、そこへスピーカーコードの先端を差し込み、レバーを離しますとコードは、しっかりロックされます。赤い端子が+で、黒い端子が-です。(図2)
- ③スピーカーシステムを2組使う場合は同様にしてSPEAKERS B端子へスピーカーコードのL, Rと位相に注意して接続してください。また接続が不完全ですと、スピーカーから音が出ない場合があります。スピーカーコードを接続した際に、しっかりロックされているか確認しておいてください。

各機器の接続と使い方

●レコードプレーヤーの接続と使い方

PHONO入力端子は2系統あり、マグネチック型カートリッジ付きのレコードプレーヤーを2台まで接続して使用できます。なおPHONO-1・2端子とも入力インピーダンス47k Ω /入力感度3mVですので、出力電圧の低いMC型カートリッジをご使用になる場合には、昇圧トランスやヘッドアンプを通して出力電圧を上げる必要があります。

■レコードプレーヤーの接続のしかた

接続は、プレーヤーから出ているシールド線先端のピンプラグのL、R（一般に白がL、赤がRチャンネル）を確認して、PHONO-1あるいはPHONO-2端子に接続してください。ピンプラグと共にアース線も出ている場合はリアパネルのGND端子に接続してください。（図3）

■演奏のしかた

レコードを演奏するときは、接続した端子に応じてフロントパネルのFUNCTIONスイッチを《PHONO-1》または《PHONO-2》に切換えてからプレーヤーを操作してください。

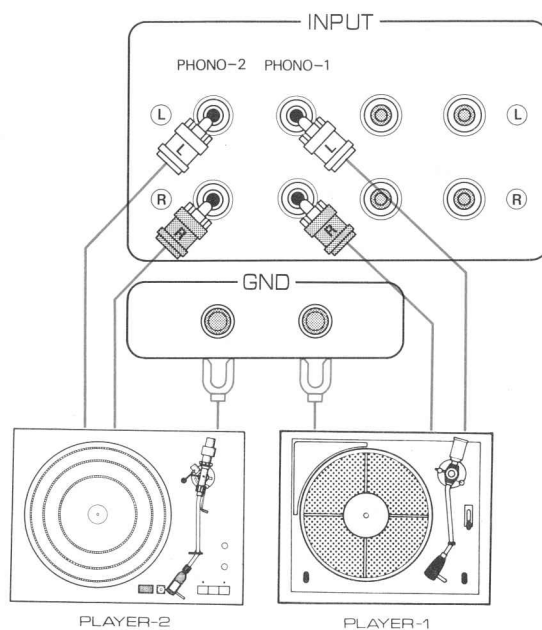
●チューナーの接続と使い方

チューナーの出力端子とアンプリアパネルのTUNER端子をL、Rを確認してピンコードで接続します。（図4）

チューナーでFM放送あるいはAM放送を聴く場合には、FUNCTIONスイッチを《TUNER》のポジションにセットし、チューナーを操作して希望放送局の周波数に合わせてください。

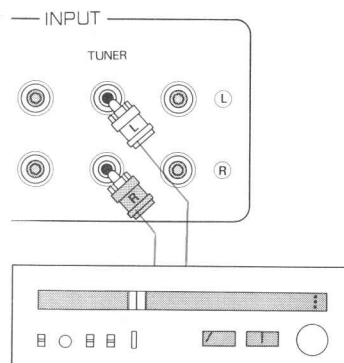
TUNER端子は、入力感度150mV、入力インピーダンス55k Ω です。チューナーに出力レベル調整ボリュームが付いているときは、適切に調整しFUNCTIONスイッチを切換えたときの音量差をあらかじめ是正しておいてください。

3 レコードプレーヤーの接続

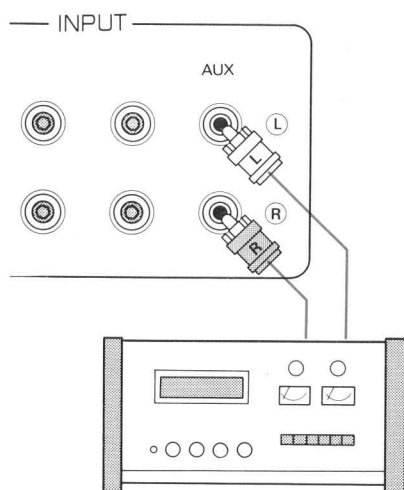


MC型カートリッジをご使用になる時は、昇圧トランスやヘッドアンプをお使いください。クリスタルやセラミック型カートリッジのついたプレーヤーはAUX端子へ接続してください。

4 チューナーの接続



5 AUXへの接続



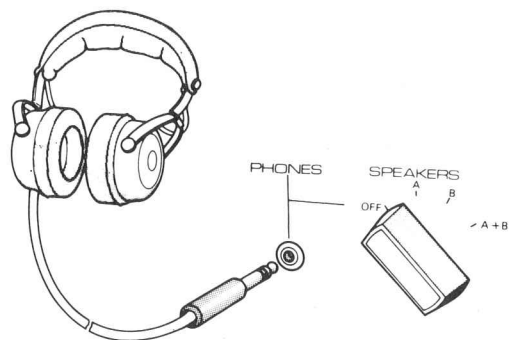
テレビ音声チューナー、8トラックテーププレーヤーなどが接続できます。

●AUXへの接続と使い方

AUX端子は補助入力用の端子で、接続使用する機器の出力端子とアンプリアパネルのAUX端子をL、Rを確認してピンコードで接続します。

この端子は、入力感度150mV、入力インピーダンス55kΩで、テレビの音声チューナーをはじめ、8トラックテーププレーヤーやマイクロホンのミキシングアンプなどが接続できます。また、クリスタルやセラミックなど出力電圧の高い圧電型カートリッジをご使用になる場合にはこの端子に接続してください。モノラルのテープレコーダーなど、モノラルのプログラムソースを片チャンネルの端子に接続する場合には、フロントパネルのMODEスイッチを《MONO》にしてください。(図5)

6 ヘッドホーンの接続



●ヘッドホーンの接続と使い方

ヘッドホンプラグをヘッドホン端子に差し込んでください。この時スピーカーの音は切れませんので、ヘッドホンだけでお聴きになりたい時は、スピーカー切換スイッチを《OFF》のポジションにしてください。スピーカーからの音が消えてヘッドホンだけで聴くことができます。ヘッドホンはL側(コードのついている方)が左耳にくるようにしてお使いください。(図6)

各機器の接続と使い方

● テープデッキの接続と使い方

2回路のREC OUT端子(テープ録音端子)とTAPE PB(テープ再生端子)を備えていますので、2台のテープデッキを接続使用することができます。アンプで再生中のプログラムソースを2台のデッキに同時録音できるだけでなく、A▶B、B▶Aとデッキ相互間のダビング(複写)が可能です。

■ 接続方法

アンプリアパネルのTAPE A REC OUT端子とテープデッキの録音入力端子(LINE IN)をL、Rを確認してピンコードで接続し、アンプのTAPE A TAPE PB端子とテープデッキの再生出力端子(LINE OUT)を同様にピンコードで接続してください。TAPE Bの接続もTAPE Aと同じ要領でおこなってください。(図7)

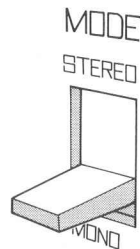
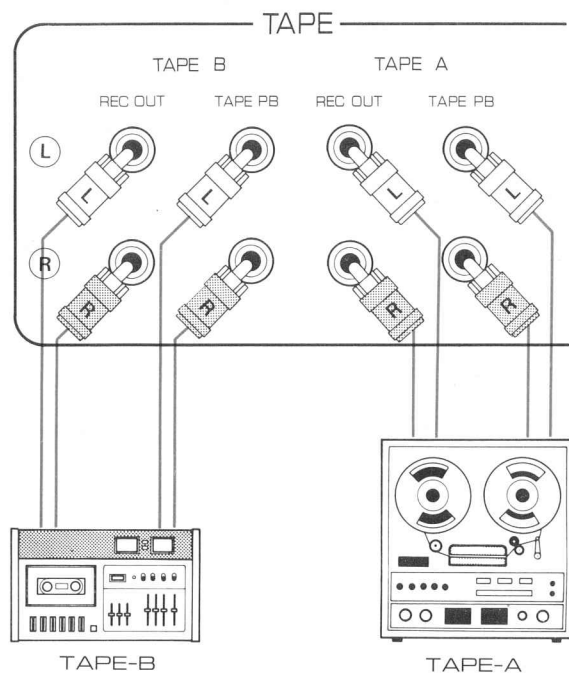
■ テープの再生

TAPEスイッチを《PLAY A》(TAPE A端子へ接続してあるテープデッキを使用するとき)あるいは《PLAY B》(TAPE B端子へ接続してあるテープデッキを使用するとき)のポジションにセットし、テープデッキを再生操作すれば、テープに録音されたプログラムソースが再生されます。

■ テープへの録音

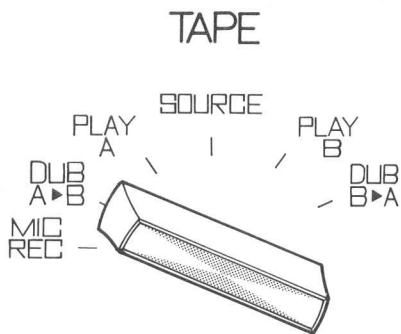
TAPEスイッチを《SOURCE》のポジションにし、TAPE AあるいはTAPE BのREC OUT端子に接続してあるテープデッキを録音操作すれば、アンプで再生しているプログラムソースをテープに録音することができます。2台のデッキが接続してあるときには、両方のデッキに同時録音することができます。テープデッキが3ヘッドのものならば、TAPEスイッチを《PLAY A》あるいは《PLAY B》にして、録音を続けながらテープに録音された信号をモニターすることもできます。

7 テープデッキの接続

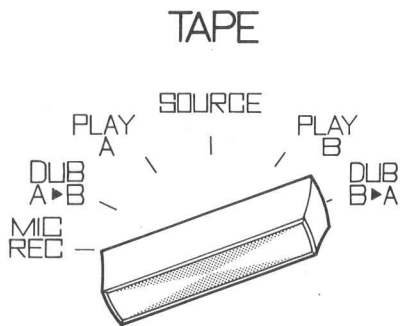


モノラルのデッキを接続する場合は、Lチャンネルに接続するようにしてください。また両方のチャンネルから音を再生したい場合はMODEスイッチを《MONO》にしてください。

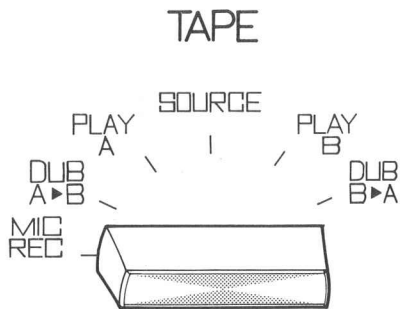
8 TAPE A端子に接続されたデッキからTAPE B端子に接続されたデッキへダビングする場合



9 BデッキからAデッキへダビングする場合



10 ミキシング録音する場合



■テープのダビング(複写)

2台のテープデッキが接続されている場合には、テープからテープへのダビングが可能です。

TAPE A端子に接続してあるテープデッキからTAPE B端子に接続してあるテープデッキへのダビングをおこなうときは、TAPEスイッチを《DUB A▶B》のポジションにセットし、Aテープデッキを再生操作、Bテープデッキを録音操作します。Bテープデッキ(録音する側のデッキ)が3ヘッド式や録音モニターのできるデッキならば、Bテープデッキからアンプに送られてくる信号が再生されますので、録音された信号をモニターすることもできます。(図8)

BテープデッキからAテープデッキのダビングも同様に、TAPEスイッチを《DUB B▶A》のポジションにセットし、Bテープデッキを再生操作、Aテープデッキを録音操作すればよいわけです。(図9)

ダビング中に、再生側テープデッキから録音側テープデッキに送られている信号をそのままアンプで再生することはできません。

(注)TAPEスイッチが《SOURCE》以外のポジションにしてあるときは、FUNCTIONスイッチで選択したプログラムソースを再生することはできません。

■ミキシング録音

マイクの音やミキシングした信号をテープに録音しておきたい時には、TAPEスイッチを《MIC REC》のポジションにしてTAPE-AまたはTAPE-B端子に接続されているデッキを録音操作してください。(図10)

(注)《MIC REC》以外のポジションでは、MICの音もミキシングされた信号も録音することはできません。

(⇒P12 マイクロホンの接続と使い方の項参照)

各機器の接続と使い方

●マイクロホンの接続と使い方

マイクロホンはモノラル用のものを一本で使用になれます。

■ミキシング再生

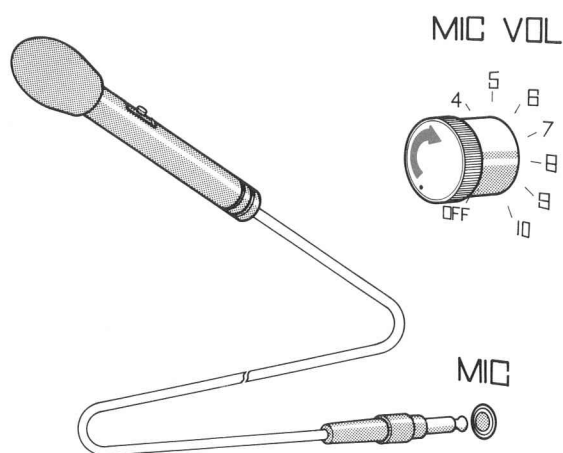
- ①VOLUMEを0まで絞り、MIC VOLを《OFF》にしてフロントパネルのMIC端子にマイクのプラグを差込みます。
- ②MIC VOLを右に回すとクリックがあり、マイク回路がONになります。
- ③ミキシングするプログラムソースの音量をVOLUMEで調整し、マイクの音量をMIC VOLで調整して適切なミキシングバランスを決めます。(図11)

■マイクロホンのみの使用

マイクロホンのみを使用する時は、VOLUMEを0まで絞れば、マイクの音だけを再生・録音することができます。

MIC VOLをあげすぎるとハウリングを起こすことがありますのでご注意ください。MICの音は、VOLUME、LOUDNESS、BASS、TREBLEなどとは関係ありません。

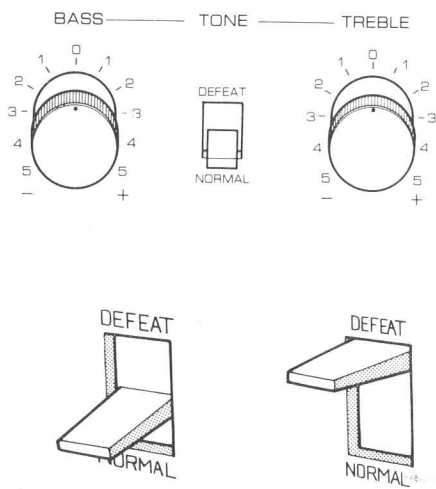
11 マイクロホンの接続



マイクロホンを使わない時は、MIC VOLを《OFF》にしておいてください。

付属機構について

12 トーンコントロール

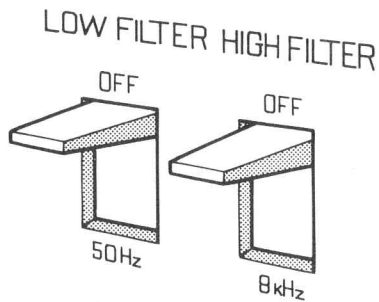


● トーンコントロール

音質は家具の配置や部屋の構造などによっても相当に変化します。トーンコントロールは音質を自分の耳にフィットするように調整する機構です。

音質を調整したい場合には、TONEスイッチを《NORMAL》ポジションにセットし、BASS（低音調整）ツマミを《0》から右へ回すほど低音が強くなり、左へ回すほど弱くなります。TREBLE（高音調整）ツマミも同様に《0》から右へ回すほど高音が強くなり、左へ回すほど弱くなります。ツマミには11ポイントのクリックストップがついています。また、TONEスイッチを《DEFEAT》ポジションにしますと、BASS、TREBLEツマミの位置とは無関係に、フラットな周波数特性の再生音が得られます。（図12）

13 ローフィルター、ハイフィルター

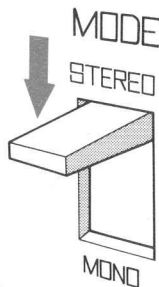


● ローフィルター・ハイフィルター

低音域あるいは高音域の雑音をカットするのがローフィルターとハイフィルターで、それぞれスイッチ切換え式です。モーターゴロなど低音域の雑音が気になる時には、LOW FILTERを《50Hz》ポジションにすると雑音が除去できます。レコードのスクラッチノイズなど高音域の雑音をカットしたい時は、HIGH FILTERを《8kHz》ポジションにします。（図13）

（注）フィルターを使わない時は《OFF》にしておいてください。

14 モードスイッチ



● モードスイッチ

入力端子に接続された各種のプログラムソースの再生形式を選択するのがモードスイッチで、通常は《STEREO》のポジションでお使いください。（図14）

STEREO 通常のスtereo再生状態
MONO 左右チャンネルのモノラル再生

付属機構について

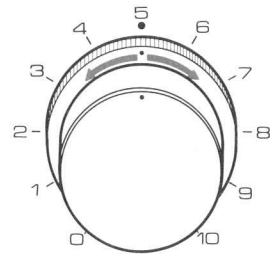
● バランス

ステレオ・バランスは左右スピーカーの能率の違いや家具の配置などによって影響を受けます。またプログラムソース自体に片寄りがある場合もあります。バランスツマミで左右それぞれのチャンネルの音量を調整してください。右に回すと左側の音が小さく、左に回すと右側の音が小さくなります。(図15)

バランスをとるにはモードスイッチを《MONO》のポジションにし、音量を普通聞いている程度にあげて中央から音が聞こえるように調整します。いつも聞かれる位置で正しいバランスになるように調整してください。調整が済みましたらモードスイッチを《STEREO》に戻してください。

15 バランス調整ツマミ (外側)

VOLUME — 0 — BALANCE

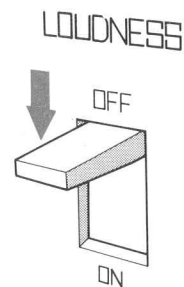


● ラウドネススイッチ

人間の耳は、音が小さくなると低音域と高音域が聴こえにくくなる性質をもっています。このスイッチはその性質を補正する回路で、夜遅くなど小さな音で音楽を聴くときに《ON》にしてお使いください。又ラウドネススイッチを《ON》にしたままボリュームをあげすぎないようにご注意ください。

(図16)

16 ラウドネススイッチ

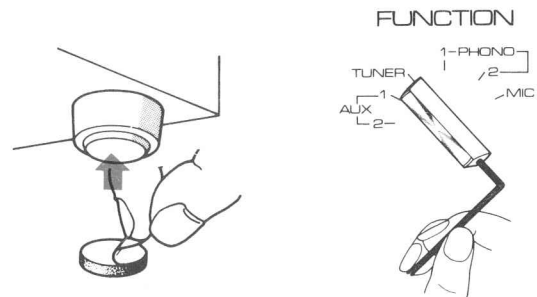


● 付属品について

サービスパッド、六角棒レンチ

サービスパッドは、本機の上に他のアンプ類やプレーヤー等を乗せる時、本機のキャビネットに傷や汚れなどをつけないために乗せるものの足に貼付するものです。使用法は紙を剥がし、上に乗せるものの足に付着させてお使いください。

六角棒レンチは、TAPE, FUNCTION, SPEAKERS スイッチの垂直性を調整するためのものです。



規格・ブロックダイアグラム

●規格

■メインアンプ部

ダイナミックパワー(IHF, 1kHz)	8Ω	70W
	4Ω	90W
実効出力	20Hz~20kHz(両ch駆動)	8Ω 20W+20W
		4Ω 25W+25W
	1kHz(両ch駆動)	8Ω 22W+22W
		4Ω 28W+28W
	1kHz(片ch駆動)	8Ω 27W/27W
		4Ω 35W/35W
全高調波歪率(AUX IN)	実効出力時	0.1%以下
	1W出力時	0.04%以下
混交調歪率	実効出力時	0.1%以下
パワーバンド幅(IHF, 歪率0.5%)		8Hz~70kHz
負荷インピーダンス		4~16Ω
ダンピングファクター(1kHz, 8Ω)		50以上
チャンネルセパレーション(1kHz, 実効出力時)		50dB以上
残留雑音		0.4mV以下

■プリアンプ部

入力感度/インピーダンス(1kHz, 実効出力時)	
PHONO 1・2	3mV/47kΩ
MIC	3mV/40kΩ
AUX 1・2, TUNER	150mV/55kΩ
TAPE PB A・B	150mV/55kΩ

PHONO 最大許容入力(歪率0.1%)	135mVrms
MIC 最大許容入力(歪率0.3%)	400mVrms
出力レベル/インピーダンス(1kHz)	
TAPE REC OUT A・B	150mV/1kΩ
PRE OUT	450mV/2.7kΩ
MIC REC OUT	450mV/2.7kΩ
全高調波歪率(PRE OUT, 実効出力時)	
PHONO 1・2	0.1%以下
周波数特性	
PHONO(RIAA偏差)	30Hz~15kHz ±0.5dB
MIC→SP OUT	100Hz~10kHz ±0.5dB
AUX→SP OUT	20Hz~50kHz ±0.5dB
S/N(IHF, Aネットワーク)	
PHONO→SP OUT	75dB以上
MIC→SP OUT	70dB以上
AUX→SP OUT	90dB以上
トーンコントロール	
BASS	50Hz ±12dB
TREBLE	10kHz ±10dB
フィルター・LOW	50Hz(12dB/oct)
HIGH	8kHz(6dB/oct)
ラウドネス	100Hz +8dB, 10kHz +5dB

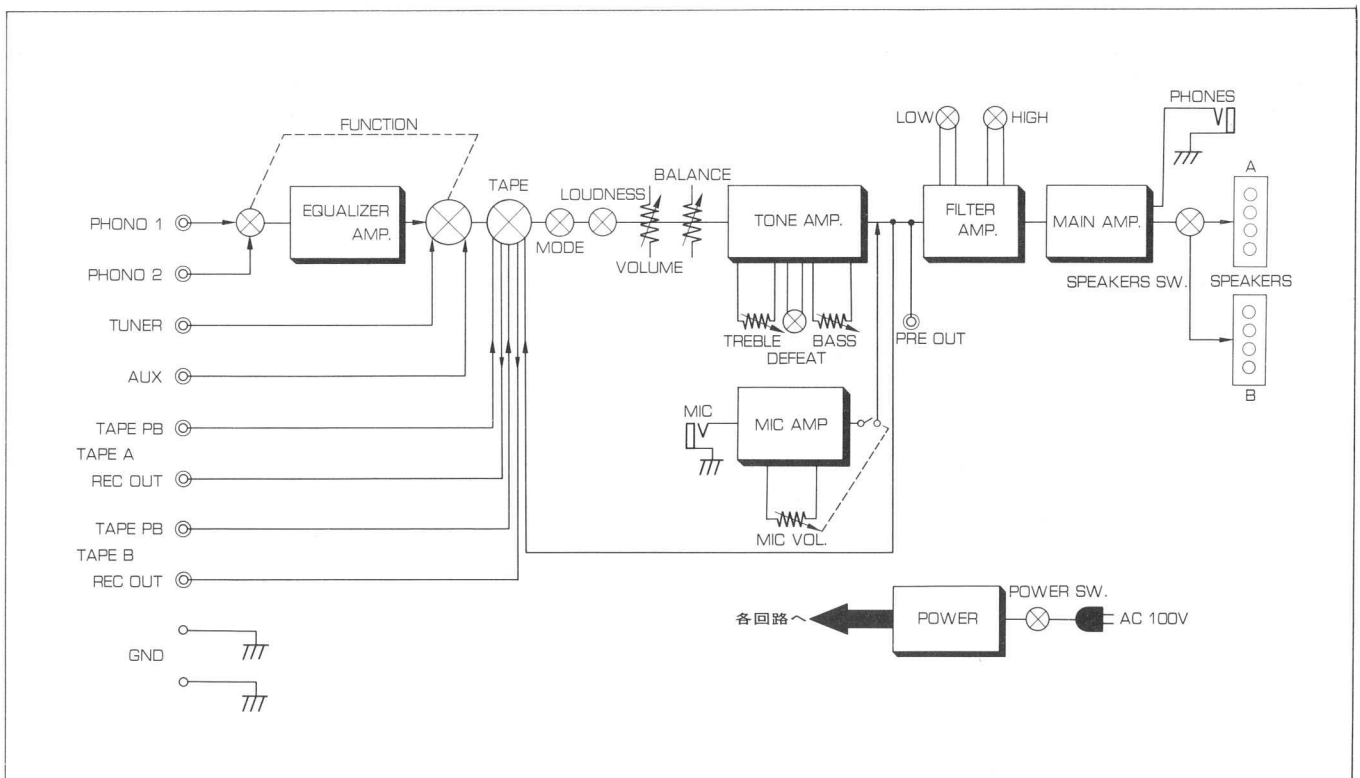
■総合

使用半導体	トランジスタ	31
	IC	2
	ダイオード	9
	ツェナーダイオード	1
消費電力		70W
無信号時消費電力		13W
外形寸法	436(W)×144(H)×300(D)mm	
重量		8.0kg

■付属品

ヒューズ 2.5A	1
六角棒レンチ	1
サービスパッド	1組
ピンプラグ付コード	1

■規格及び外観は改良のため予告なく変更されることがございます。



故障と思われる時には……

症 状	原 因	処 置
電源スイッチをONにしても電源が入らない	電源コードが電灯線コンセントにしっかり差込まれていない	コンセントにしっかり差込み直す
	電源ヒューズが切れている	ヒューズ (2.5A) を交換する
接続は完全だが、FUNCTIONスイッチを切換えても再生音が全く出ない	TAPEスイッチがSOURCEポジションになっていない	TAPEスイッチをSOURCEポジションにする
左右スピーカーあるいは左右いずれかのスピーカーから音が出ない	スピーカーコードの接続が不完全	スピーカーコードの接続を確認する
	SPEAKERSスイッチがOFFになっている	SPEAKERSスイッチを適切なポジションに合わせる
	BALANCEツマミがずれている	BALANCEツマミを正しく調整する
再生中に突然音が出なくなった	スピーカー出力端子に直流電位が発生したため、スピーカー保護回路が動作しヒューズが切れている	保護回路用のヒューズを交換する
	電源ヒューズの切断	ヒューズ (2.5A) を交換する
低音のない不自然な再生音で、音像が定位しない	スピーカーの位相 (+, -) が合っていない	位相 (+, -) を合わせて接続しなおす

レコード演奏のとき、“ブーン”というハム音が入る	ビンプラグとシールド線の接触不良	シールド線を新しいものと交換する
	プレーヤーのアース線をGND端子に接続していない	アース線をリアパネルGND端子に接続する (接続しない方がいい場合もある)
アマチュア無線の通信内容が再生音に混入する (特にPHONOで)	近所にアマチュア無線局がある	日本楽器各支店のオーディオ技術係に相談する
		もよりの電波管理局に相談する
		そのアマチュア無線局に《アンプ・アイ》が入ると知らせ、送信機などについて対策を講じてもらう
レコード再生時、VOLUMEをあげると“ワーン”という音が出る	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの設置場所が近すぎたり、不安定だったりして“ハウリング”を起している	レコードプレーヤーとスピーカーシステムの各々の設置場所を変えてみる
FM/AM放送、レコード演奏、テープ演奏のときの音量に差がある	チューナーとレコードプレーヤー、テープレコーダーの出力が異なっている	VOLUMEツマミで最適の音量に調整する

●サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器各支店オーディオ技術係へお願い致します。

サービスのご依頼について

●サービスのご依頼は、お買上げ店、または日本楽器各支店オーディオ技術係へお願い致します。

■支店への持込み修理

故障の場合、出張サービスのご依頼をなさらずに、直接ご自分でお買上店又は最寄りのヤマハ各支店へお持ちいただければ、出張料などの経費の点でお得ですし短期間でおなおしすることができます。裏表紙のヤマハ各支店の住所と電話番号をご参照ください。

■サービスをご依頼なさる前に

ご使用中に“故障ではないか？”とお思いになる点がございましたら、まず“故障と思われる時には……”の項をお読みになってください。故障ではなく、ご自分でかんたんになおしになれる場合もあると思います。（ご依頼をお受けしてお伺いしますと、故障ではない場合でも点検代と出張費を頂戴させていただきます）

■サービスのご依頼

サービスをご依頼なさるときは、お名前、お住まい、電話番号をハッキリお知らせください。またお勤めで昼間ご不在の方は、お勤め先の電話番号、もしくは連絡方法をお知らせください。（ステレオの具合をもう少しくわしくおたずねしたいときや、万一やむをえぬ事情によってお約束を変更しなければならないようなときに、お客様にご迷惑をおかけしなさいです）

■故障の状態はくわしく

サービスをご依頼なさるときは、故障の状態をできるだけくわしくお知らせください。またステレオの型番、製造番号などもあわせてお知らせください。（サービスにお伺いする際、あらかじめ補修部品などを手配し、二度お伺いしな

ければならないようなご迷惑をおかけすることがありません）

■サービスのお約束

お仕事の関係で昼間ご不在がちのお客様や留守勝ちのお客様は、できるだけお伺いする日時を事前にお約束させて頂きたく存じます。万一、お約束した日時にご都合が悪くなられましたら、できるだけおはやくご連絡くださるようお願い致します。（事前にご連絡をいただきませんと、ご不在の場合でも、出張料を頂戴いたしますので、ご注意ください）

■保証期間の1カ年を過ぎましても有償にて責任をもってサービスを実施致します。尚補修用性能部品の保有期間は8年となっております。

■万一お買上店でのごサービスについてのご不満又は製品の不調や疑問がございましたら、ご面倒ではございますが、下記ヤマハ各支店オーディオ技術係にご連絡くださいますようお願い致します。

■各支店住所（オーディオ技術係）

本社・〒430-91	浜松市中沢町10-1(電音サービス課) TEL (0534)61-1111(大代表)
東京本社・〒104	東京都中央区銀座7-9-18(パールビル内) TEL (03)572-3111
大阪支店・〒564	吹田市新芦屋下1-16 TEL (06)877-5151
名古屋支店・〒460	名古屋市中区錦1-18-28 TEL (052)201-5141
九州支店・〒812	福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL (092)431-2151
北海道支店・〒060	札幌市中央区南三条西4-12(エイトビル内) TEL (011)281-6111
仙台支店・〒980	仙台市一番町2-6-5 TEL (0222)27-8511
広島支店・〒730	広島市紙屋町1-1-18 TEL (0822)48-4511
浜松支店・〒430	浜松市鍛冶町122 TEL (0534)54-4111

日本楽器製造株式会社

本社・工場	〒430-91・浜松市中沢町10-1 TEL・0534(61)1111	神戸店	〒650・神戸市生田区元町通り2-188 TEL・078(321)1191
東京支店	〒104・東京都中央区銀座7-9-18/パールビル内 TEL・03(572)3111	四国店	〒760・高松市丸亀町8-7 TEL・0878(51)7777
銀座店	〒104・東京都中央区銀座7-9-14 TEL・03(572)3111	名古屋支店	〒460・名古屋市中区錦1-18-28 TEL・052(201)5141
渋谷店	〒150・東京都渋谷区道玄坂2-10-7 TEL・03(463)4221	九州支店	〒812・福岡市博多区博多駅前2-11-4 TEL・092(431)2151
池袋店	〒171・東京都豊島区南池袋1-24-2 TEL・03(981)5271	福岡店	〒810・福岡市中央区天神1-11/福岡ビル内 TEL・092(721)7621
横浜店	〒220・横浜市西区南幸2-15-13 TEL・045(311)1201	小倉店	〒803・北九州市小倉区魚町1-1-1 TEL・093(531)4331
相鉄店	〒220・横浜市西区南幸1-5-1/相鉄ジョイナス内 TEL・045(311)6361~4	北海道支店	〒060・札幌市中央区南三条西4-12/エイトビル内 TEL・011(281)6111
千葉店	〒280・千葉市中央4-2-1/まつだやビル内 TEL・0472(24)6111	仙台支店	〒980・仙台市1番町2-6-5 TEL・0222(27)8511
大阪支店	〒564・吹田市新芦屋下1-16 TEL・06(877)5151	広島支店	〒730・広島市紙屋町1-1-18 TEL・0822(48)4511
心斎橋店	〒542・大阪市南区心斎橋筋2-39 TEL・06(211)8331	浜松支店	〒430・浜松市鍛冶町122 TEL・0534(54)4111
梅田店	〒530・大阪市北区梅田1/阪神百貨店5階 TEL・06(345)4731	海外支店	ロスアンゼルス・メキシコ・ハンブルグ ・シンガポール・フィリピン